

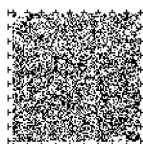
鶴岡政男 《リズム》 1935

音楽を眼に見えるようにするにはどうしたら良いだろう。たとえば20世紀初頭にもカンディンスキーやクレーをはじめ多くの美術家たちがこの試みに挑戦をしました。

「音楽」は明治になってからできた、外国語を翻訳した言葉。楽器の奏でる音が楽しいことから楽の字が楽しいという意味を表すようになりました。

『リズム』と名付けられた鶴岡政男さんのこの作品、伸びやかに描かれた線や虹のような色あいから、この絵が掛けられていた渋谷の喫茶店にいる人の様子まで伝わってくるようです。

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ Y

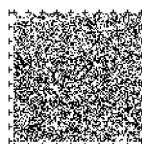


佐藤照雄 《地下道の眠り》 1947-1956

展示室の窪んだ行き止まりの中に、静かに 21 点のデッサンが並んでいる。少し目を凝らすと日付があるものも多い。画家佐藤照雄が、敗戦後すぐの上野の地下道に通い、取りつかれるようにして描いた人々。地下道はその人々の「住」だった。10 年間にも渡り描き続けられたデッサンは、そのまま日本の戦後史の一部でもある訳だ。中に、1 点だけ別のスケッチが貼られているデッサンがある。眠る男の子は戦後 10 年経った頃に描かれたもののなのに、貼られたスケッチの日付は戦後。これも画家からの私たちへの静かなメッセージなのだろうか…。



ガイドスタッフ Y

音声コード
Uni-Voice

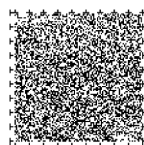
中村 宏 《砂川五番》 1955

巨人のような警察官が踏みつける地図。「砂川五番」は、その地図の、警察官の足の辺りに位置する地名で、現在の東京都立川市にあります。鉄条網の向こうの米軍基地と米軍機。基地の拡張に抗議する農民と、阻止する警察隊などが、超広角レンズで撮影したかのように描かれています。

この絵は、事件が起きている現場に赴き制作する、「ルポルタージュ絵画」の代表作です。時事的な問題を題材にしますが、「米軍基地」「米軍機」「農民／漁民」「警察隊」が、現在の沖縄の基地問題にも登場することを考えると、70年前に描かれたこの作品が、今に通じるものであることが分かります。



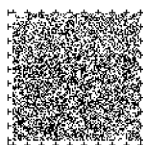
ガイドスタッフ K

音声コード
Uni-Voice

田中敦子 《作品（たが）》 1963

もしかしたら作家は、大阪の道頓堀あたりを歩きながら「あのネオン看板きれいやなあ、着てみたいわ」と心奪われたのかもしれませんが。実際に180個ほどの電球が点滅する「電気服」を作ってしまったのですから。いつ感電するかわからない危険な服を。その電球と配線がからまる「服」の設計図も面白かったのでしょう、こんな抽象画に発展していきました。光沢のある合成樹脂エナメル塗料を使っていることにご注目。角度によって光って見えたりしませんか？この円と曲線から成る色鮮やかな絵は、生涯繰り返し描かれ、作家の代名詞となりました。

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ N



オノ・ヨーコ 《握手をする絵》 1961/2015

この作品は、カンヴァスに開けられた穴に手を通し、反対側にいる相手と握手をするものです。だれかと握手することを想像してもよいかもしれません。鑑賞者参加型の作品です。

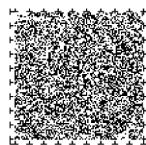
みなさんは、作品を鑑賞するとき、どんな視点からみていますか？作家の出身地の歴史や制作年にあった出来事など、さまざまな角度からみると、おもしろいですね。この作品は、国籍や言語が違う人同士でも参加できます。作品を鑑賞するうえで、美術史への解釈も必ずしも必要ではないでしょう。だれもが参加できる開かれたアートです。



ガイドスタッフ M

音声コード

Uni-Voice

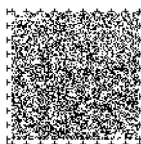


河原 温 「Today」シリーズについて

河原はシンプルに日付をカンヴァスに描き続けました。手作業で丁寧に。背景に使う色や字体、完成期限（その日付中）と、厳格な規律を自らに課して。1966 年から亡くなる前年の 2013 年まで約 3,000 点を制作しました。

たとえば、そこに描かれた日に、自分（又はあなたの親や祖父母）は何をし、どんな日だったか、といったことに想像を広げる人もいるかもしれません。河原自身にとり、一点を完成させることはその日を生きた証だったといえます。数十年間日々注がれた熱量を想うと、日付絵画を描き続けたこと自体もまた彼の一つの大きな作品です。

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ T

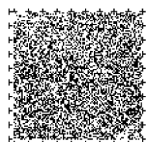


草間彌生 《自殺した私》 1977

草間彌生さんは幼い頃から精神の病に苦しみ、その辛さや恐怖をあえて作品にすることで乗り越えてきました。この作品は、渡米し成功を収めた後、親しい人の死を経て帰国し、精神病院に入院しながら制作を始めた頃のもので、自殺してしまいかねない自分を作品にすることで命を繋いできたのかもしれない。

草間さんといえば、私は黄色に黒い水玉模様の巨大なカボチャの作品を思い浮かべます。さまざまな苦しい経験を経て実ったカボチャだと思えば、その堂々とした姿が草間さんの人生の勲章のように見えてきます。

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ K



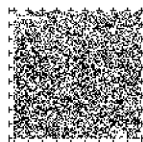
森村泰昌 《批評とその愛人 A、B、C》 1990

3つ並んだ絵画の1枚には、りんごに顔がありますね。これは、作者である森村さん自身の顔です。森村さんは、世の中の色んなものに顔を見つけ出すという特技があるといえます。例えば、真ん中の1枚を見て、あなたならどこに顔が見えますか？その顔はどんな表情をしていますか？

「まなぶ」と「まねる」を合体した「まねぶ」作品作りを行う森村さんは、まねるときのミスや誤読が新しいものを作るといいます。毎日の漢字ドリルや、英語の発音の練習は繰り返してつまらないかもしれませんが、この作品を知ると少し楽しみになります。



ガイドスタッフ S

音声コード
Uni-Voice

富井大裕 《ball sheet ball》 2006

ポップでカラフルな作品ですが、どこか違和感を感じませんか。スーパーボールって、誰もが一度は手に取って遊んだことがあるのでは。スーパーボールは弾むのが本来の役割ですが、ここでは何層にも重なるアルミ板をささえる役割をさせられています。

本来の機能を果たしていないので、頭が混乱しますよね。それが違和感だったのかも。モノの価値観を変えて、この世界をもう一度作り変えてみると何が見えるか。作品を通して、作者である富井はそんな問いを投げかけているように思います。



ガイドスタッフ S

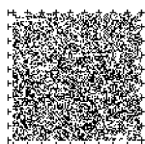
音声コード
Uni-Voice

風間サチコ 《噫！怒涛の閉塞艦》 2012

荒れ狂う海、波に飲み込まれそうな船、爆発している建物、原爆のキノコ雲。この世の終わりのような光景ですね。東日本大震災によって起きた原子力発電所の事故を受け、原子力の安全性を問いかけた作品です。その背景を知って見ると、福島原発、原子力船「むつ」、第五福竜丸が見えてきませんか？作家は「記録画は【忘却】の【防波堤】である」と語り、歴史や現代社会の問題点を見つめ直し、木版画の手法で鋭く彫り起します。

1 階に展示された 80 年前の戦争記録画も現代の記録画も私たちに大きな警鐘を鳴らしています。現実を風化させないように。

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ T



サイモン・フジワラ

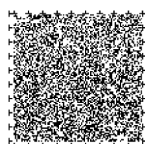
《再会のためのリハーサル（陶芸の父とともに）》

2011-13

ヘッドホンから小気味よいイギリス英語。ん、どこまでが芝居？と思ったあなた、もう遅いです。虚実ないまぜのサイモン沼にハマっています。

半ば強引なサイモン（作家本人）に戸惑いつつ従うロビン。でも最後にティーポットへ一撃を加える二人の息はピッタリ。え、ロビンも演技だったの？だとしたら助演俳優賞もの。個人的には、二人でやる陶芸と聞いて映画「ゴースト」を思い出し爆笑するロビンを冷静にスルーするサイモンがツボだけど、あれはアドリブ？疑いだせばきりがなく。でも、白黒つけないのが流儀なんですよ、サイモンさん？

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ M



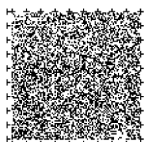
青山 悟

〈News From Nowhere〉シリーズについて

古そうな印刷物がならんでいますね。女性の衣装だけ、色とりどりの刺繍が施されています。「どこかで見たことあるかも？」と思った方は、相当なファン！そう、この〈News From Nowhere〉シリーズでは、リアーナやテイラー・スウィフトといった、現代セレブの衣装を参照しています（Juliette の衣装は俳優のジュリエット・ルイスのもの）。

作品タイトルの由来である小説の邦題は『ユートピアだより』。あなたのユートピア（理想の社会）はどんな世界ですか？ 作品に描かれた女性たちは、ユートピアにいると思いますか？

音声コード
Uni-Voice



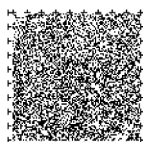
ガイドスタッフ F

宮島 達男 《それは変化し続ける それはあらゆる
ものと関係を結ぶ それは永遠に続く》 1998

しばらく眺めてみましょう。1から9までの赤く
点滅する数字が、それぞれ違う速度で繰り返し動いて
います。0はありません。

ここから何をイメージしますか？ 生と死、人生、
人間社会、あるいは宇宙でしょうか。LED デジタル
カウンターを使ったシンプルな数字だからこそ、
感じ方はさまざま。想像が広がるのかもしれませんが。
この作品の長いタイトルは、作家が大切にしている考え方
そのものです。「それ」とは何でしょう。あなたなら
「それ」をどんな言葉に置き換えたいですか？ 広い
この空間に包まれながら、時間を忘れて考えて
みませんか。

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ N



アルナルド・ポモドーロ

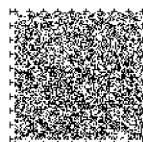
《太陽のジャイロスコープ》 1988



ガイドスタッフ I

ジャイロスコープは船や飛行機の針路を定める時に使われる道具です。絶対の安定性と信頼性が求められます。作品を見てみましょう。とても力強く、合理性を感じます。でも気付きましたか。そこにある鋭い裂け目に。作者のポモドーロによれば、この裂け目は深層意識を表現しているのだそうです。合理性と深層意識が共存しています。この作品を見ると私は自分の人生を思います。岐路に立ち人生の針路を定める時には合理的な判断を心がけ、人生を送ってきたように思うのですが、そうでなかったこともあるなど。それは、それでよかったなど。

音声コード
Uni-Voice

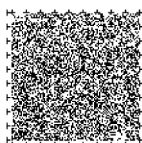


オノ・ヨーコ

《インストラクション・ペインティング》について

真っ白なカンヴァスに描かれたインストラクション（指示）。テキストのみのシンプルな作品ですが、目に入った瞬間、何かイメージが湧いてきませんか？ 具体的なモチーフがあるペインティング（絵画）とは違い、この作品が鑑賞者に与えるイメージは一人ひとり異なります。ある意味、この作品は私たちの頭の中で初めて完成するとも言えるのではないのでしょうか。普段見過ごしてしまいがちな日常のモノや光景も、この切り取られたテキストのように、ふと意識を向けてみることで、新しい見え方が生まれてくるかもしれません。

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ F



鈴木昭男

《道草のすすめ - 「点 音（おとだて）」 and "nozo mi"》

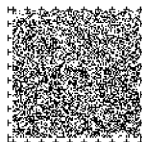
2018-19

《点 音》は美術館内と敷地内に点在する 12 個の白くて丸いプレート。《no zo mi》は屋外展示場にある 5 つの階段状のもの。足とも耳とも見えるマークが目印。見つけたらたぶん乗ってみたいくなる、そんな作品です。美術館で作品に乗っていいの？ そう思われるかもしれません。が、子どもの頃、駐車場の車止めブロックのような地面から少し高いところについてみたいくなりませんでしたか？ そんな気持ちのまま、ぜひ《点 音》に乗って、耳を澄ましてみてください。

12 の《点 音》の場所の地図もご用意しています。

手に入れて探検開始です！

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ Y

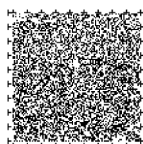


文谷有佳里 「ライブドローイングについて」

美術館のガラス面がここだけ華やか！ 2019年7月24日の公開制作で、仕上がって行く様子をお客様が直接見られるライブドローイング。一発勝負です！

黒くのびやかな線は作家の想いを乗せて高い所まで続きます。時には『そのペン書きやすいよね』などとお声もかかり、お客様との会話を楽しみながら和やかに。作品制作を通じて人とのつながりを大切にしています。私も挑戦したくなります。建築家が図面を描く様に、音楽家が作曲をする様に、描かれた作品からリズムカルなメロディーが聞こえて来るでしょう。コレクション展の入口にふさわしい作品です。

音声コード
Uni-Voice



ガイドスタッフ O